

すべての原発  
いますぐなくそう！  
全国会議

# NAZEN ヒロシマ

2020.3.20 No.15

NAZENヒロシマ通信

発行 NAZENヒロシマ運営委員会

広島市中区鞆町14-3-705

TEL&FAX 082-221-7631

E-hiroshimanazen0311@gmail.com

blog <https://nonuke.at.webry.info/>

## 五輪やってる場合か！子どもの未来を守れ！

### 3.11反原発福島行動に参加して

政府は新型コロナウイルス感染拡大予防のためとして、全国一斉休校やイベント自粛を要請しました。それをうけ日本中のありとあらゆる“人の集まり”が軒並み中止や延期になるなか、「3.11反原発福島行動'20」の全国集会の実行委員会も「命と健康を守る立場からは中止すべき」「緊急事態宣言を発動できる国家体制づくりに対決する意義がある」等の討議を重ねました。そして「安倍政権のもとでは労働者民衆の命と健康は守れない」という根底的な怒りを持って闘い抜くため、感染拡大を防ぐ措置を最大限に追及しながら、自粛要請の圧力をはねのけて集会を開催しました。

国策である原発が事故を起こしたことにより、福島周辺地域が放射能に汚染されたのだから、被曝から逃れるための避難や移住あるいは被曝医療は国によりすべて補償されるのが当然です。

しかし実際には住民たちは被曝を受忍させられています。福島原発事故から9年経ちましたが、原子力緊急事態宣言は解除されていません。（山林の除染は困難であること、廃炉完了の見通しが不明瞭なことなどを考えれば解除されていないのが当然のことではあります。）本来なら一般住民の被曝限度は1mSv/yですが、福島周辺は20mSv/yで避難指示解除されています。解除になった区域の住民には避難生活への支援を打ち切り、子どもたちの甲状腺検査体制は縮小。JR常磐線は3月14日に全線開通しましたが、聖火リレーのスケジュールに合わせて駅と

線路周辺だけをあらかじめ避難指示解除するという欺瞞に満ちたものです。

新型コロナウイルスのパンデミックにより東京オリンピック開催がやぶまれています。そもそも、福島の現実から目をそらしてオリンピックを寿ぐことは、労働者民衆の分断に他なりません。「オリンピックやってる場合か」という集会スローガンは、原発も核兵器もない社会をつくるのは我々労働者民衆なのだという宣言でもあると思います。

広島からもNAZENヒロシマと共闘の仲間たちが参加しました。9年続く福島の闘いとともにあろうとすることが、広島75年を継承し闘い抜くことにもなるはずで。

(NAZENヒロシマ運営委員 保科)



## 原発事故「事実と違う」!?

5年に1度の核拡散防止条約（NPT）再検討会議の開催に合わせ、日本被団協はこれまでに3回の「原爆展」を国連本部で開催し、外務省がこれを後援してきました。

しかし来月開催予定の4回目について、チェルノブイリと福島原発事故被害を伝えるパネルが含まれていることに対し、外務省は内容の変更を求め、後援を拒みました。

被団協は「NPTが認める原子力の平和利用を妨げるものというのが外務省の言い分。しかし原発事故に触れないのでは、核の非人間性を訴えることができない。後援がなくてもこの内容で開催する」

外務省は、前回(2015年)は同様の内容でも後援したにも関わらず今回対応を変えた理由について詳細は明らかにしていませんが、茂木外務相は「**事実と違うものは後援できない**」と答弁。(3/6衆院外務委員会)

これに対し、被爆地ヒロシマからも批判の声があがっています。核兵器使用禁止条約に背を向け、人々を苦しめ続けている原発事故の現実を無きものにしようとする政府の姿勢は、被爆者にも原発事故被災者にもまったく寄り添わないものです。さらには、展示内容に介入するなど、政府見解への画一化をはかる危険なものと感じずにはられません。

NAZENヒロシマ呼びかけ人 渡子 健

**【速報】** 新型コロナウイルス感染拡大情勢のため、被団協はNPTへの代表団の派遣をとりやめました。会議自体の延期が検討されています。

「被爆75年の節目。核兵器と戦争のない世界を目指して奮闘する。国連には行けないが、ありったけの力で核兵器廃絶を訴えたい」と被団協。

### ■ ■ お知らせ ■ ■

● NPTについての学習会を4月下旬に予定しています。主催：8・6大行動（詳細次号）

## 伊方3号機再稼働ゆるすな

1月17日、広島高裁は伊方原発運転差し止め訴訟について、山口地裁岩国支部の決定をくつがえし、運転を認めない決定を出しました。四国電力による活断層調査や原子力規制委員会による審査を「不十分」とするものです。



伊方原発は昨年12月から定期点検に入っていますが、1月になりトラブルが続出し、定期点検も中断しています。

- 1月12日、制御棒を誤って引き上げる。
- 同20日、プールから引き上げた燃料棒を誤ってラックに乗り上げさせる。
- 同25日、電源喪失。

3月17日、これらのトラブルについて四国電力が報告書を作成。国、県や市町に提出しました。県知事は「**多方面から検討している**」と評価。定期点検を再開するかどうかを規制委と県専門部会で審査する、としています。

地震の発生を否定できないという当たり前の事実に基づく司法判断をも無視し、伊方原発3号機の再稼働が目論まれています。

**2020.4.17(金)**

## ◆ 金曜行動 ◆

中国電力本社前

広島市中区小町4-33

電車・バス「中電前」

**17:15~18:15**

